

〈年表〉 PoD から連携協定企画に到る経緯

2013年

- 1月 国立駅に近いとある酒場で、公民館+市民+大学合同企画スタートアップミーティング「出版社をつくってみよう?」。参加者20名余。
- 1月18日 《くにたちPoD》第1回ミーティング（於国際研究館、以下同様）。「出版社より、〈レーベル〉をつくってみようか?」。《くにたちPoD》の名称決定。
- 3月11日 《くにたちPoD》第2回ミーティング。「書棚をキュレートしてみよう」
- 4月8日 《くにたちPoD》第3回ミーティング。参加メンバー確定。本をめぐる企画から、「道德教育カリキュラム・モデルの作成」へと唐突に舵を切る。以降、月1回の定例会を1年間にわたり開催。
- 7月 「くにたちPoD 道德教育カリキュラム素案」作成。
- 8月～9月 このころ「大学院生講座」の企画が持ち上がる。
- 11月 「くにたちPoD 道德模擬授業趣意書」作成。このころ、「有用な教材作成」から「カウンターの効果をもつ副教材開発」へ方針転換。

2014年

- 2月 「大学院生講座」第1弾「映画の音響効果学——見えない声から何かが見える?」（於公民館、以下同様）
- 3月 《くにたちPoD》活動終了
- 4月 一橋大学共通教育の授業として「道德教育を考える」教養ゼミナール（夏学期）を開講（武村）。受講生12名。このころ、年明けに「道德」をテーマに5回連続講座を開く企画が持ち上がる。
- 5月 「大学院生講座」第2弾「建築と映像——光と影から見る建築」
- 7月 教養ゼミナール閉講
- 10月 「大学院生講座」第3弾「世にも奇妙な小津映画——揺れない列車と鳴り続けるピアノ」

2015年

- 1～3月 公民館教育講座「「寛容」について学び、伝え、考える」（隔週5回連続）
- 3月 「大学院生講座」第4弾「テレビに宇宙人がやってきた！ 初期ウルトラシリーズから迫る“本格特撮テレビ映画”の正体」
- 5月 「大学院生講座」第5弾「救いをもたらすのは一体誰？ — オペラにおけるフィナーレの変遷」
- 12月 「大学院生講座」第6弾「「故郷」とはいかなる場所か？ — 『苦界浄土 わが水俣病』と流民の故郷」
- このころ、「大学院生講座」記録冊子『くにたち PoT』を作成する企画が持ち上がる。

2016年

- 1～3月 公民館教育講座「「クリーンなもの」と「クリーン」でないもの～今日の「不寛容」について考える～」(隔週5回連続)
- 3月 「くにたち PoD を振り返る」座談会
- 5月 「大学院生講座」第7弾「近代中国における自伝の誕生」。このころ、公民館と言語社会研究科の間に正式な協定を結ぶことで諸企画の確実な継承をはかってはどうかという話が持ち上がる。
- 9月 『くにたち PoT』ゼロ号印刷完成
- 11月 公民館・研究科間の協定準備がすすむ。また、「教育講座」を「一橋大学連携講座」と改め、年明けに5回連続講座の第3弾「街角にいつも「大学」がある～くにたち教養マッピング」を企画。
- 12月 「大学院生講座」第8弾「日本は「見える」のか？ — 「異文化」としての日本と翻訳の問題」
- 3月～2017年4月（予定）「大学院生講座」第9弾「忘れられた画家 — 抽象表現主義前夜の「美術」をめぐる」